



金光図書館は
あなたのサポーターです。



あなたの見たい・聴きたい・調べたい
・読みたいをお手伝いいたします。

総務部長 福田 浩先生
教会部書記 星野 ちはや先生
おすすめの本を教えてくださいました。

KONKO Library

〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷 320
☎0865-42-2054 fax0865-42-3134

✉ konko-library@konkokyo.or.jp
🏠 <http://www.konkokyo.or.jp/konko-library>
ブログ <http://ameblo.jp/konko-kyouco/>

金光図書館は、全国どこからでもだれでも無料でご利用いただけます。

あなたの身近で本を読むこと
にお困りの方はいませんか？
障害者手帳を持っていない
でも、右記項目に該当している
方なら『読書支援サービス』を
ご利用いただけます。

- ♥視覚にハンディキャップを抱えている・・・
 - ♥高齢・病気等で最近文字が読みにくくなった・・・
 - ♥手のしびれ・麻痺・ふるえ等で本のページがめくりにくい・・・
 - ♥身体の病臥状態により、本を持ったりページをめくったりしにくい・・・
 - ♥目は見えるけれど、文章の意味が理解しにくい・・・
 - ♥長時間、活字を読むことが困難・・・
- などの理由で、本を読むことにお困りな方！

『読書支援サービス』の紹介

点字図書・録音図書（CD・デージー）及び再生機（PLEXTALK）貸出し



録音図書（CD・デージー）



再生器（PLEXTALK）

録音図書（CD・デージー）とは、「耳で聴く図書」です。
再生には、専用の再生機が必要となる場合があります。
再生機器の貸出しも行っています。
『金光新聞』の点字図書・録音図書及び、『あいよかけよ』
『教報 天地』の録音資料がございます。

※ご自宅まで無料で郵送いたします。
くわしくは、読書支援サービスまでお問い合わせください。

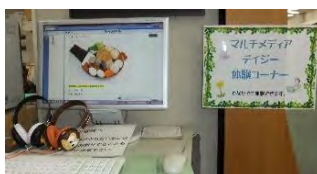
対面朗読サービス

担当の職員・ボランティアが、ご希望の資料をお読み
します。持参資料も可能です。資料を早く読みたいときや、
調べものをする時、図の説明を詳しく受けたい時などに
ご利用ください。

- ・要予約：事前に電話等でお申し込みをお願いします。
- ・利用時間：火曜日～日曜日の午前10時～午後6時
（金曜日は、午後1時半～午後6時）



マルチメディアデージー体験コーナー



マルチメディアデージー図書は、朗読と同時に文章
や絵を見ることができます。ぜひ視聴体験してみ
てください。

大活字本コーナー



大きな活字で書かれた
「大活字本」は、高齢で
文字が読みにくくな
った方や弱視の方など、
どなたでも自由にご利
用いただけます。



拡大読書機



携帯型の拡大読書機

モニターには、拡大された文字や画像が
映ります。白黒反転機能があり、弱視の
方にも見やすい表示になっています。ま
た、携帯型の拡大読書機を館内で貸出し
て利用することもできます。



本との出会い

☆今回は、福田 浩先生・星野 ちはや先生が
おすすめの本をご紹介します。☆



総務部長
福田 浩先生 (城北教会)



『アンネの日記 完全版』

アンネ・フランク・著 深町真理子・訳 文芸春秋

金光教学院の卒業を間近に控えた昨春、私は初めてこの超有名作品を手にしました。それは、作家の小川洋子さんの表現する金光教に救われたことがきっかけでした。彼女が大きな影響を受けたのが「アンネの日記」だと知り、ふいに読んでみたくなったのです。読んでみて、とても驚きました。環境は大きく違って、共感できることがあまりにたくさんあったからです。もっと早く、アンネの年頃に分かち合いたかったことばかりでした。また、「どんな信仰であれ、なにか信仰を持つひとは、正しい道を踏みあやまることはないでしょう」というアンネの言葉には、教師になることに背中を押してもらったような気もしました。

私はこれまで、「遠い昔の、遠い国の、かわいそうな女の子のお話」という勝手な先入観を持って敬遠してきていましたが、そのおかげで、このタイミングでアンネに出会えたことをありがたく思います。

これからも、多くの方がアンネの言葉に触れ、多くの方の心の中でアンネが生き続けていくことを願っています。



教会部書記
星野 ちはや先生 (留萌教会)

金子みすゞの詩集……神様の言葉を語る詩人
もう20数年前になるだろうか。朝日新聞のコラムで紹介された詩を読んで驚いた。作者は金子みすゞという詩人で、題は「大漁」という詩だった。

大漁
朝やけ小やけだ 大漁だ
大ばいわしの 大漁だ

浜はまつりの ようだけど
海のなかでは 何万の
いわしのとむらい するだろう

この詩を読んで、今までに読んだ詩とは全く違う世界を見せられた気がした。人間の眼で見た世界だけではない、何か天地の眼で見た世界というものを表現している気がしたのである。

それから、すぐに出版社に電話をして、全集を取り寄せ読みふけた。そこに表現されているみすゞの世界は、名も無いもの、小さいもの、弱い者たちへの限りない慈しみのまなざしであった。小鳥、草、雪、雲、魚、それらを人間にとって利用するもの、眺めるものと捉えるのではなく、ともに生きるものとして感じているのである。私には全くない生き方を感じたのである。

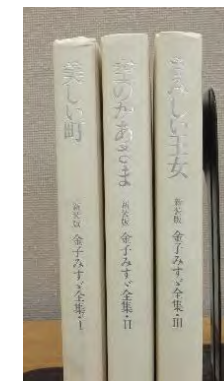
金光教祖は、「木の切り株に腰を下ろして休んでも、立つときには礼を言う心持ちになれよ」と教えられた。そのみ教えに通ずるものである。天地の間に存在するもののすべてに命があり、その命とともに生きる人間の生き方を教えられた気がした。人間のために天地があるのではなく、天地の中に人間が生かされているのだということである。

みすゞの詩は、そのことをすべての人に語りかけているのだと感じる。

つもった雪
上の雪 さむかるな。
つめたい月がさしていて。

下の雪 重かるな。
何百人ものせていて。

中の雪 さみしかるな。
空も地面（じべた）もみえないで。



『金子みすゞ全集Ⅰ～Ⅲ』金子みすゞ・著 JULA出版